

1. はじめに

向上訓練コースは地域企業及び企業に働く人々の要望に応じて設定される必要がある。この向上訓練への要望は職場状況の変化にともなって多様化し、把握しにくい場合が多い。そのため向上訓練コース設定に関する研究が必要となっている。

向上訓練コース設定に関する研究として、神田茂雄（1984）、戸田勝也、神田茂雄（1986）、若林俊治、従業員類型別教育訓練研究プロジェクトメンバー（1987）、脇山雅史（1987）などがある。これらの研究はそれぞれ重要な提案を行っているが、地域企業からどのように訓練要望を聴きだし、どのように訓練コース化するか、その手続・方法についてはかならずしも十分な検討がされていない。そこで、昭和61年度研究の継続として測定向上訓練を事例として、向上訓練コース設定の手続・方法に関する検討を行なう。¹⁾²⁾

この研究の前報、「生産工程の統合化と測定技能のとらえなおし」（戸田勝也、上田克己、西川義雄、1987）では、その研究の目的をつぎのように記述している。

「機械系向上訓練のうち“測定法”コースをとりあげ、従来おこなわれた“測定法”コースを見直し、公共訓練施設において実施するにふさわしい向上訓練とはどのようなものか、を実際に向上訓練コースを設定、実施しながら検討することを目的とする。」

そして具体的には、「向上訓練の内容が生産実態に適合し、生産工程を統合的にみて生産活動のできる技能者の育成をめざし、まず生産現場において測定に関する向上訓練がどのような意味で必要なのかを吟味する。

そして、特に機械加工のベテランを対象としてトータルな技能と実務の理論的裏づけを持てるようにするために自己の“とらえなおし”機能をもつ、いわゆる“技能診断クリニック”方式をとりあげ、その訓練がこの地域企業の人々に受け入れられるかどうかを検討する。」

この目的にそって、向上訓練実施者側からの生産現場における測定技能の分析、金型業界における測定の実態と測定向上訓練の必要性についての分析、測定に関する向上訓練の意味の検討などを行ない、日程、訓練内容・方法を定め、新しい測定技能クリニックコースを設計した。（これを“測定技能クリニックPART I”と称する。）

それに加えて本報では前報の主旨を生かしつつ、次の点を検討する。

つまり、特に地域企業から出てくる、やゝ具体的にとらえにくい訓練要望、たとえば「生産現場に役立つ」、「現場に即した」などの表現を含む要望の中から訓練要望の本質を抽

出し、さらにそれに基づいて当該の向上訓練コースを構築する設計の手続きを検討することを本研究の目的とする。

訓練職種としては前報とのかかわりで機械加工での測定をとりあげる。なお、今回設計される向上訓練コースを“測定技能診断クリニックPARTⅡ”と名づける。

調査対象地域及び業界は富山県高岡市周辺の金型業界である。調査期間は昭和62年7月から10月である。

調査方法はつぎの二点を特徴とする。

第1に、面談を通して生産現場に役立つ測定の中味を徹底して探った。面談テープは面談後に文章化された。

第2に、インタビューア－は機械系専門家ではなく、向上訓練企画担当者と向上訓練研究者である。これは技術・技能の体系からのみ企業の要望を聴き取るのではなく、企業人の訓練要望のすべてを素直に聴取するためである。

面談とコース・デザイン設計の経過は図1の通りである。

文中に登場する人物は Hi 精型 Yo 技術部長，工業技術センター Bo 生産技術課長，Si 社 No 社長，O工業O技術課長，そして技能開発センターNi企画員，職業訓練研究センターTo研究員である。（補足資料1，資料2を参照。）

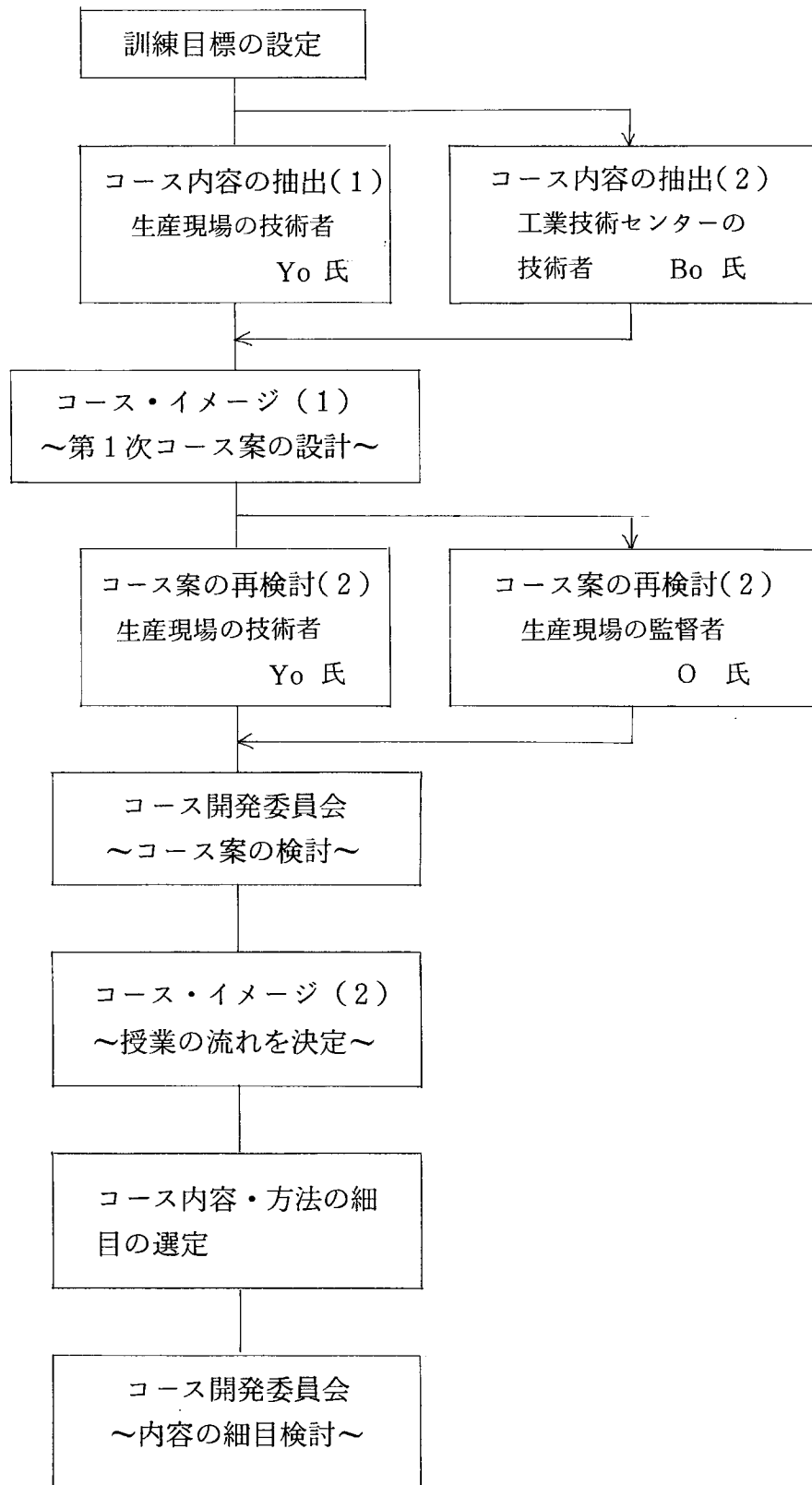


図1 訓練コース設計の手順